

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

1. 21世紀COEプログラム「言語認知総合科学戦略研究教育拠点」：平成14年度に採択された本プログラムは、国際文化研究科を中心として遂行され、平成18年度は5年目の最終年度を迎えている。
2. 国際高等研究教育院：平成18年度創設の若手研究者要請のための支援組織に協力し、言語・人間・社会・システム領域基盤の人材育成を図る。
3. 国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センターの設置計画：平成19年度設置に向けて申請した。
4. 四研究科連携「ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラム」：「ヒューマン・セキュリティと社会」プログラムに、平成18年4月第一期新生を迎えて、学生教育を開始した。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

1. 藤田 緑教授の第5回島田謹二記念学芸賞受賞：

著書「アフリカ「発見」——日本におけるアフリカ像の変遷」(岩波書店、2005年)により、平成18年4月2日第5回島田謹二記念学芸賞を受賞。
2. 劉 庭秀助教授のアジア諸国における環境問題に関する一連の研究活動：
 - a) 「モンゴル国の中古車輸入拡大が大都市の環境悪化に与える影響分析と国際協力のあり方に関する研究」(平成17年度(財)大森都市研究振興財団国際交流助成)
 - b) 「容器包装の分別収集・処理に係る拡大生産者責任の制度化に関する研究」(平成18年度環境省廃棄物処理等科学研究費補助金)
 - c) 「日韓における拡大生産者責任制度の実態分析とパートナーシップ構築に関する研究」(平成18年度環境省廃棄物処理等科学研究費補助金)
3. 韓国との文化及び学術交流：
 - a) 佐藤 滋教授：日本学区術振興会二国間交流事業共同研究「日本語と韓国語の語彙・形態素情報処理の普遍性と特殊性に関する認知神経科学的研究」(平成16年度から平成18年度まで)
 - b) 公開国際交流プログラム「韓国文化への誘い」—映像と言葉から見た日韓文化交流—(平成18年2月4日開催)。パク・ジョンヨル(韓国・中央大学校日語日文科教授)の講演「日本大衆文化と共に見るソウルの風物」と、映画「殺人の追憶」(日本語字幕スーパー付き)の上映に続き、イ・チュンジク(韓国・中央大学校先端映像大学院教授)の講演「韓国映画産業と韓日文化交流」があり、市民を含めた約200名の聴衆が来場した。
 - c) 公開国際交流プログラム「韓国伝統音楽公演「韓国風流との出会い—コムンゴとヘグムの調べ—」(平成18年7月29日開催)。韓国伝統音楽界を代表する金泳宰(韓国国立芸術総合学校伝統芸術院教授)先生と金龍河氏が、伝統音楽の演奏を披露。約150名の聴衆があった。